

《担当者名》講師 / 平山 裕一郎
 准教授 / 山田 康司 教授 / 高上馬 希重
 講師 / 金 尚永 講師 / 坪郷 哲

【概要】

下級学年で学んだ化学系科目の知識を基礎として、実践の場での展開、応用例について学ぶ。天然有機化合物の構造と標的分子相互作用の解析、創薬ターゲットの探索と医薬品の合成、生薬成分の化学構造解析や生合成に関する遺伝子レベルでの解析、有機合成反応の開拓とアルカロイド合成へ利用などのテーマから、自分のさらに伸ばしたい知識や能力の獲得を目指す。

【学修目標】

- 有機化学の反応を用いて身近な現象を概説できる。
- ドラッグデザインについて概説できる。
- 構造活性相関について概説できる。
- 標的分子と化合物の相互作用について概説できる。
- ケモインフォマティクスについて概説できる。
- 複素環の反応特性を概説でき、それを骨格とする代表的な医薬品や天然物を列挙できる。
- 科学の発展におけるセレンディピティーについて概説できる。
- 生薬の薬用成分の分離精製や構造解析について概説できる。
- 生薬の薬用成分である二次代謝化合物の生合成について概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	天然物化学とケミカルバイオロジー	天然物の構造活性相関研究について説明できる。 生物活性発現における化合物と標的分子の相互作用について例を挙げて説明できる。 ケミカルバイオロジー研究について例を挙げて説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C4-(1)- -2、C4-(3)- -1、C5-(2)- -1、C5-(2)- -1,2	平山 裕一郎
3) 4	触媒の開発と反応への適用、医薬品の合成	触媒の種類について説明できる。 触媒と基質の相互作用について説明できる。 触媒と反応について説明できる。 医薬品の合成方法について概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C3-(1)- -1~9、C3-(1)- -1~8、C3-(3)- -1~2	坪郷 哲
5) 6	生薬化学成分の分離精製および構造解析	生薬の二次代謝化合物を分類し、その生合成経路について説明できる。 生薬に含まれる化学成分の分離精製について例を挙げて説明できる。 生薬に含まれる化学成分の構造解析について例を挙げて説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C5-(2)- -1~5、C5-(2)- -1、C5-(2)- -1~3	金 尚永
7) 8	二次代謝化合物の生合成機能解析による薬用成分生成	生薬の二次代謝化合物に関して遺伝子レベルでの生合成機能解析について説明できる。 二次代謝化合物の培養細胞による生成について例を挙げて説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C5-(2)- -1~5	高上馬 希重
9	複素環の化学：反応性とアルカロイ	複素環、特にインドールの合成法ならびに反応性を	山田 康司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
5 10	ド合成への応用	説明できる。 インドール骨格を含む医薬品を列挙できる。 インドールアルカロイドの合成法を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C3-(2)- -4,5	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポート（70%）、学習態度（出席を含む、30%）

提出されたレポートは修正意見を付して返却する。

【教科書】

プリント配布

【学修の準備】

授業に関連する化学系科目を復習し、基礎的な知識を確認しておくこと（50分）。

課題に関連する情報を収集し、授業内容の理解を深めること（50分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

C3 化学物質の性質と反応

(1)化学物質の基本的性質 基本事項 有機化合物の立体構造

(2)有機化合物の基本骨格の構造と反応 芳香族化合物

(3)官能基の性質と反応 概説

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

(1)医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質 医薬品の標的となる生体高分子の化学構造

(3)医薬品の化学構造と性質、作用 医薬品と生体分子の相互作用

C5 自然が生み出す薬物

(2)薬の宝庫としての天然物 生薬由来の生物活性物質の構造と作用 天然生物活性物質の取扱い 天然生物活性物質の利用

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。